

令和8年度 北九州市立企救中学校 学校経営方針

北九州市立企救中学校

校長 塩川 久美

1. 学校経営理念

『一人一人 ひとつひとつを大切に』

2. 学校教育目標

『夢と希望に向かって努力し、他を思いやる、豊かな心をもった生徒を育む』

3. 学校教育スローガン

『場を清め 時を守り 礼を正す』 『凡事徹底』

4. 学校教育目標達成に向けて目指す学校像、生徒像、教師像

(1) 目指す学校像

- ①生徒と教師の目標が達成され、生徒が行きたい、保護者が行かせたい、地域が応援したいと思える学校
- ②教職員がともに学び合い、協働して活動するやりがいのある学校
- ③生徒・保護者・地域の願いに応える、信頼される学校
- ④生徒の夢と心が育つ学校

(2) 目指す生徒像

- ①自他の生命や人権を大切にし、相手を思いやり、人の心の痛みや優しさを素直に感じ取れる生徒
- ②向上心をもって、労をいとわず、人のために誠実に行動できる生徒
- ③人として行うべき正しい行動や、物事の正しい道筋を見抜く力を持った生徒
- ④自ら考え、正しく判断し、信念と責任をもって、強い心でやり通すことのできる生徒

(3) 目指す教師像

- ①責任ある態度や実践力、言葉を通して、生徒・保護者・地域から信頼され、関わりを大切にする教師
『厳しいけど冷たくない 温かいけど甘くない』
- ②学校教育目標の達成を目指し、『チーム企救中』として、人間関係を大切にしながら、組織的に教育活動に取り組む教師
- ③教育公務員としての使命を自覚し、自己研鑽する教師

5. 本年度の重点目標

- (1) 読書・AI を使った確かな学力の向上と、健やかな体の育成
- (2) 生命尊重を基盤とした、安全・安心な学校づくり

6. 重点目標達成のための具体的方策

※全職員で作成した『企救中学校スクールプラン』の達成に向けた取組の充実

(1) 読書・AI を使った確かな学力の向上と、健やかな体の育成

①学力向上委員会及び三部会（授業改善・補充学習・学習規律）を機能させ、組織的に取り組むことで学力向上を図り、生徒一人一人の進路を保障する。

＊学習規律と学習意欲向上のための『企救中5つの学習ルール』の確立。

（チャイム席を守る、姿勢を正す、先生の話をしきりと聞く、忘れ物をしない、学習環境を整える）

＊補充学習・家庭学習の充実（朝自習、小テスト、企救チャレンジノート、定期考査前の取組等）

＊大学生による授業補助の実施（北九州市立大学等）

＊読書活動の推進（図書室の活用、隙間時間の読書活動、ビブリオバトル等）

＊AIドリルを使って、基礎基本の定着、苦手克服。

②教育活動全体（保健体育科授業、体育的行事、部活動指導等）を通して、生徒の体力向上を図る。

＊一人一人が達成感を味わえる授業の工夫、新体力テストに向けた効果的な取組。

(2) 生命尊重を基盤とした、安全・安心な学校づくり

①豊かな心を育てる活動の推進

＊教育活動全体を通して道徳教育の充実を図り、正義感や倫理観、生命尊重、思いやりの心を育むとともに、一人一人の生徒に夢と希望を持たせる。

＊人権教育の視点に立って、一人一人を大切にする取組を実践しながら、自他の人権を大切に思う心をもった生徒を育むとともに、自尊感情の育成を図る。

＊学校行事（体育大会、企救中フェスティバル等）や PTA 行事、地域行事において、保護者や地域とのつながりを重視し、学校・家庭・地域が連携して子どもを育てる環境をつくる。

②規律ある生活習慣の確立と組織的・機動的な生徒指導体制の充実を図り、安心できる学校を構築する

＊規律ある生活習慣確立のため『場を清める（掃除の励行、環境美化）』『時を守る（時間厳守、チャイム席）』『礼を正す（挨拶、返事、言葉づかい、服装）』の徹底を行い、『凡事徹底』に取り組む。

＊学級や学年の枠を越えた、組織的・機動的な生徒指導体制確立のため、教職員相互の情報交換、情報共有を密に行いながら、特別支援教育の視点に立った生徒指導を推進する。

＊いじめ、不登校、虐待等、問題事象を生まない教育実践の充実を図り、生徒の発する SOS を見逃さず、学校と関係機関が連携した、未然防止・早期発見・早期対応・早期解決に努める。

＊教育相談やチャンス相談、心の健康観察等を活用し、生徒の目線に立った生徒理解に努める。

＊長欠・不登校生徒が少しでも学校復帰、進路選択ができるように、地域・大学・関係機関を使い、学校復帰プロジェクト『ばってりー』の活用を行う。

③北九州市防災教育プログラム等を有効に活用した防災教育を推進することにより、生徒・職員の危機管理意識を高め、命の大切さを認識させる

＊中学校区（北方小・若園小）で連携して、防災学習に取り組む。

7. 重点目標達成のために大切にしていきたいこと

(1) 互いの立場を尊重し、仕事がやりやすい職場の雰囲気をつくるとともに、報告・連絡・相談を大切にしながら、共通理解・共通実践を進め、『チーム企救中』を目指す。

(2) 教職員としての資質向上のために効果的な OJT、OFFJT 自己研鑽を行い、教師力と人間力の向上を目指す

(3) 教育公務員としての自覚をもち、綱紀粛正に努める。